新今昔物語

第45話

古堤街道を往く⑧「聖徳太子堂と太子信仰」

東諸福公園近くに架かる大東大橋から300メートルほど東に進むと、左手に聖徳太子堂が見えてきます。ここには、江戸時代後期の作といわれる、高さ32・8センチメートルの聖徳太子の木像が安置されています。右手に柄香炉（えごうろ）という仏具を持ち、左手で袈裟（けさ）の先をつかみ祈りを捧げるしぐさは、太子が16歳の時、父の用明天皇の病気回復を祈願する姿を表した「孝養像（きょうよう）」と呼ばれる最も一般的な形式の像です。中世以降、庶民の間に聖徳太子信仰が広まるとともに各地でこのような像が作られました。大東市内では、野崎にある専応寺にも南北朝時代の作といわれる孝養像が安置されています。

太子田地区では、太子講という信仰組織を中心に聖徳太子信仰が古くから盛んでした。太子信仰に関係すると思われる「太子田」という地名は、天正12年（1584）の「河内国御蔵入帳（かわちのくにおくらいりちょう）」に「たいしてん」と出てくるのが初めてで、安土桃山時代にはこの地で信仰が定着していたことがうかがえます。

太子堂の敷地内に「善根寺」と刻まれた石碑が立っています。かつてこの付近に善根寺という寺院があり、太子像はそこに安置されていました。善根寺が明治6年（1873）に廃寺となると、その後しばらくの間は近くの明福寺で安置されていましたが、大正10年（1921）、聖徳太子の逝去から1300年を記念して、信者らが浄財を募り聖徳太子堂が建立され、ここに太子像がまつられました。現在太子堂は明福寺が管理しており、毎年4月には地元の人々が集まり法会（ほうえ）が営まれています。太子信仰は聖徳太子堂を拠点に今も継承されています。

次回は、聖徳太子堂の東側に立つ、太子田の氏神・大神社を紹介します。

（生涯学習課）

「善根寺」と刻まれた石碑

太子孝養像

聖徳太子堂